

我が国における博士課程修了者の国際流動性について

科学技術政策研究所は、我が国の博士課程を修了した者の国際移動を明らかにするため、博士課程修了者の進路動向調査を分析するとともに、教員や留学生担当者に対するインタビュー調査を実施しました。

我が国の博士課程を修了した者の国際移動には、主に、東アジア地域出身の留学生が日本を訪れ、博士課程修了後に母国へ戻る循環と、日本人の修了者がポストドクターとしてアメリカに渡り、数年後に日本に戻ってくる循環があることがわかりました。

博士課程の留学生について、その人数は増加から停滞に転じつつあります。中国・韓国出身者は減少していますが、留学生全体に占める比率は依然として高く、帰国する者よりも日本で就職する者が増えてきています。一方、中国・韓国以外のアジア圏出身者は着実に増加しており、中国・韓国出身者に比べ、帰国して就職する者(母国で大学教員をしていた者が復職する場合など)が多くなっています。インタビュー調査の結果より、今後、博士課程留学生を増やしていくには、英語のみで学位が取得できるコースを設け、日本語という障壁を減らし、留学しやすい環境を整備することと、日本での就職を支援するために日本語教育や就職支援を充実させることが必要であると考えられます。

日本人修了者の国際移動については、日本人修了者全体の 2%に過ぎず、増加傾向も見られず、その多くがアメリカ合衆国でポストドクターになっています。ただし、博士課程在籍時に「国外研究経験」のある者は国外で就職する割合が高くなっており、博士課程において国外研究経験を増やす施策が望まれます。

本研究は、2つの調査から構成されています。

①博士課程進路動向調査

日本国内の博士課程を有する大学に対して、2002年度から2006年度の5年間に博士課程を修了した者(満期退学を含む)全員の属性(性別、年齢、国籍など)、進路動向(終了直後または現在の職業など)を調べた全数調査です。

②博士人材の国際流動性に関するインタビュー調査

上記調査で国際流動性が高い大学を対象に、「留学生の獲得、就職」、「日本国籍の者の国外就職」などについて、留学生担当者や教員に対して自由面接法での調査を行いました。

※ 本報告書につきましては、科学技術政策研究所ホームページ

(<http://www.nistep.go.jp/index-j.html> の「報告書」欄)に掲載されますので、そちらで入手することが可能です。

(お問い合わせ)

科学技術政策研究所 第1調査研究グループ

担当: 巖、三須

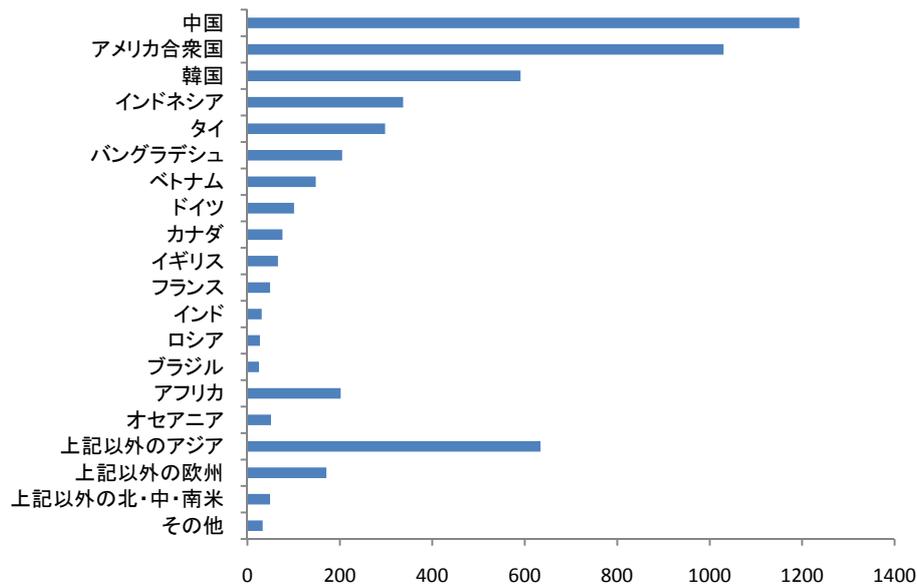
TEL: 03-3581-2395(直通) FAX: 03-3503-3996

E-mail: 1pg@nistep.go.jp

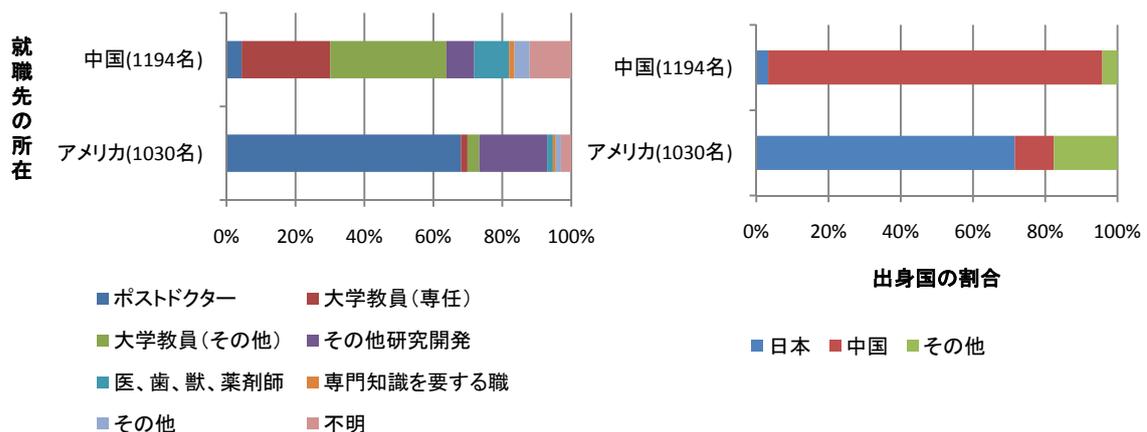
本調査の結果

(1) 博士課程修了者の国際流動性

我が国の博士課程修了者75197名（調査対象5カ年の総数、留学生・社会人含む）中5318名（7%）が国外で就職しています。国際移動には主に、東アジア地域出身の留学生が日本を訪れ、博士課程修了後に母国へ戻る循環と、日本人の修了者がポストドクターとしてアメリカに渡り、数年後に日本に戻ってくる循環が存在します。



国外就職者の就職先所在国・地域別人数 (2002-6年度)



国外就職者の就職先所在国別職業

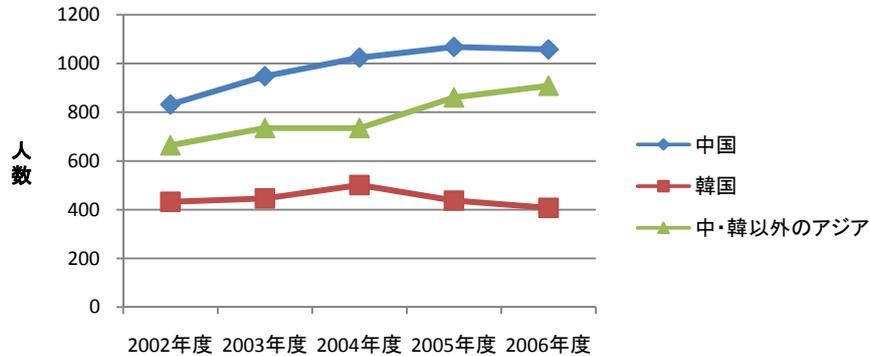
国外就職者の就職先所在と出身国

(2) 博士課程を修了した留学生の進路動向

我が国の博士課程を修了した留学生修了者は12633名（博士課程修了者の17%）で、人数は増加から停滞に転じつつあります。博士課程修了後、日本に留まる者が増えており、職業としては、帰国した場合は「大学教員」、日本に留まる場

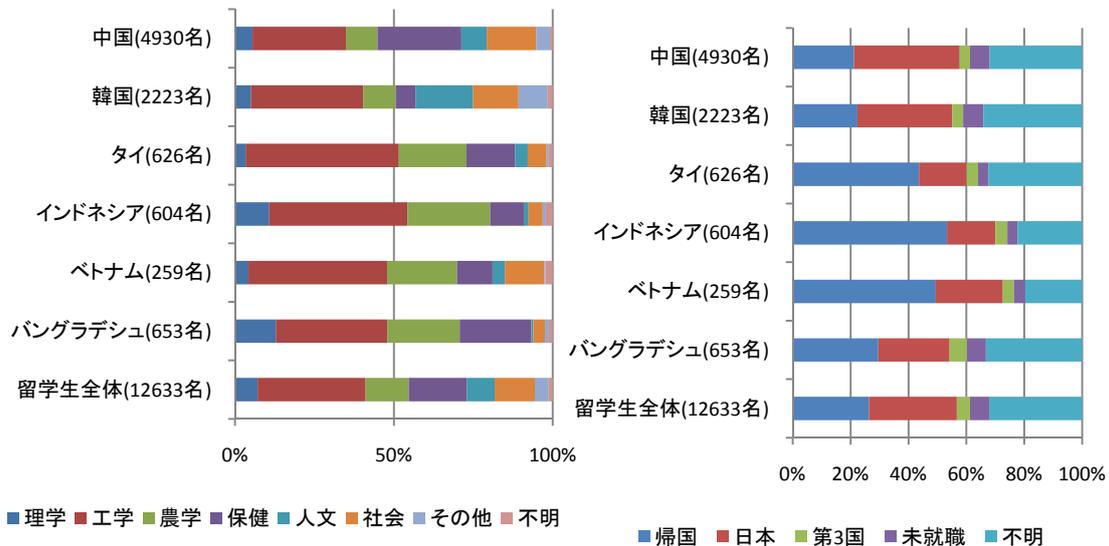
合は「ポストドクター」なる者が多くなっています。

国・地域別では、最も多い中国出身者が全体の39%、次に多い韓国が18%、中国と韓国を含めたアジア地域全部で88%を占めており、中国出身者は増加から停滞、韓国出身者は減少しているのに対して、中国・韓国以外のアジア諸国出身者が増えています。



アジア圏出身者における留学生修了者数の推移

研究分野を見ると、中国・韓国以外の発展途上国出身者では工学と農学を専攻する者の割合が高いのに対して、中国出身者では保健系、韓国出身者では人文科学系の割合が高くなっています。帰国状況では、中国、韓国出身者は日本に留まる者が多いのに対して、中国・韓国以外の発展途上国出身者では帰国者が日本に留まる者を大きく上回っています。



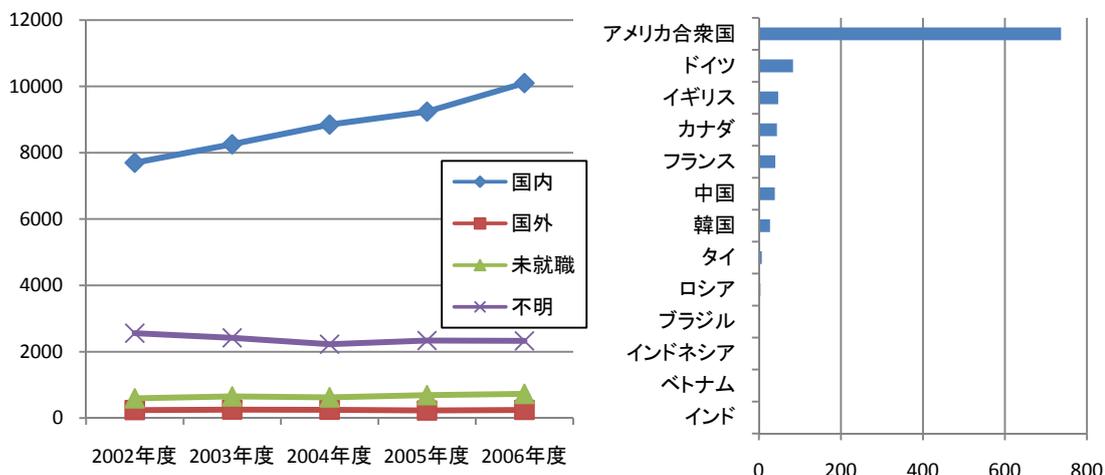
留学生修了者の国別研究分野内訳

留学生修了者の国別帰国状況

(3) 博士課程修了者の国際流動性

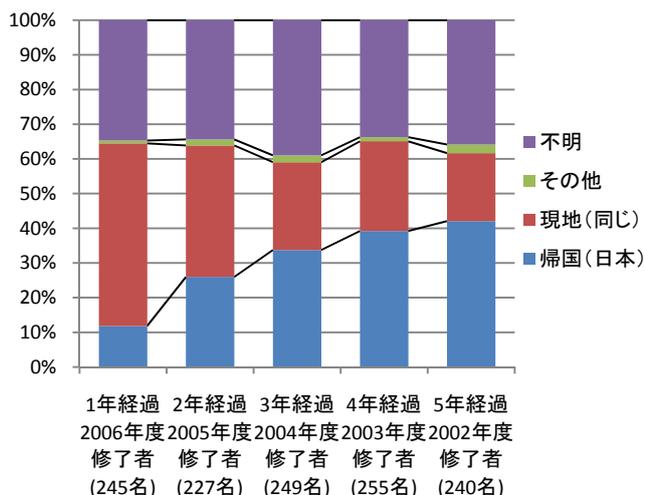
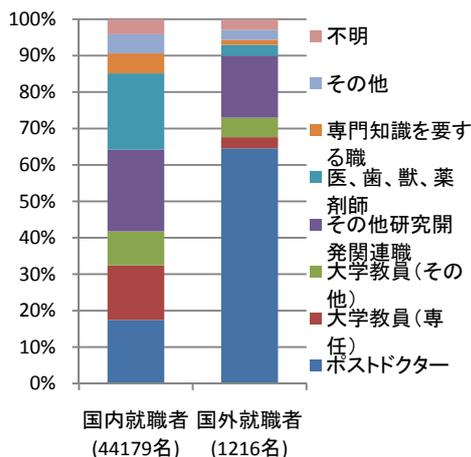
日本国籍の博士課程修了者60535名の内、国外就職者は1216名（2%）で、増加傾向が見られず、就職先はアメリカ合衆国（全体の61%）などの欧米先進諸国が

中心で、6割以上の職業が**ポストドクター**となっています。なお、博士課程在籍時に国外研究経験がある者は国外就職者比率が高くなっています。日本人国外就職者の多くが、その後日本に帰国しています。



日本人修了者の国内・外就職者数の推移(2002-6年度)

日本人国外就職者の所在地



日本人修了者の国内・外別職業内訳

日本人国外就職者の帰国状況

(4) 博士課程修了者の国際流動性

インタビュー調査の対象大学は、留学生比率、日本人の国外就職者比率が高く、農学系、工学系分野に強い大学となっています。インタビュー調査から、以下のことが指摘されています。

[博士課程留学生の動向]

- 博士課程の**留学生は、母国で大学教員や公務員をしていた者が多く、博士課程修了後、母国の大学に復職する者が多い。**
- 教員の共同研究先になっている国・地域からの留学生が多くなっている。
- 留学生が集まるのは卒業生や留学生のネットワークによるところが大きく、

卒業生が、さらに若手を送ってくるという循環が見られる。

- 博士課程 留学生が日本国内の民間企業に就職するには日本語能力が重要である。就職先は、留学生の出身国に現地法人がある大企業が中心である。

[日本人国外就職者の動向]

- 日本人で 国外に就職した者の多くは、教員を通じて受け入れ先を紹介してもらっている。
- アメリカに行った者も、ポストさえあれば日本に帰国している場合が多い。
- 海外経験を積ませるため、海外派遣や海外インターンを進めている大学があり、学生が海外で就職することへの抵抗感を軽減している。

調査結果から示唆されること

■ 留学生獲得のための施策

我が国の博士課程における留学生数は増加から停滞へと転じつつあり、今以上に博士課程を、留学生にとって魅力的なものにする必要があると考えられます。そのためには、英語のみで講義が受けられ、学位論文も提出できる「英語特別コース」を設け、日本語という障壁を減らし、容易に日本に留学できる環境を準備することが望まれます。また、日本での就職を考えている者に対しては、日本で就職しやすくするための日本語教育や就職支援の充実が望まれます。

■ 日本人博士課程修了者の国際流動性を高めるための施策

日本人博士課程修了者のうち、国外で就職する者は 2%しかおらず、増加傾向も見られません。我が国が諸外国の研究レベルから遅れないためにも、国外で就職する者をもっと増やしていく必要があると考えられます。博士課程在籍時に「国外研究経験」のある者では国外就職者比率が高くなっていることを踏まえ、博士課程在籍時における国外研究経験を増やしていく施策が望まれます。